

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 31人 国語B 31人

② 算数A 31人 算数B 31人

5 留意事項

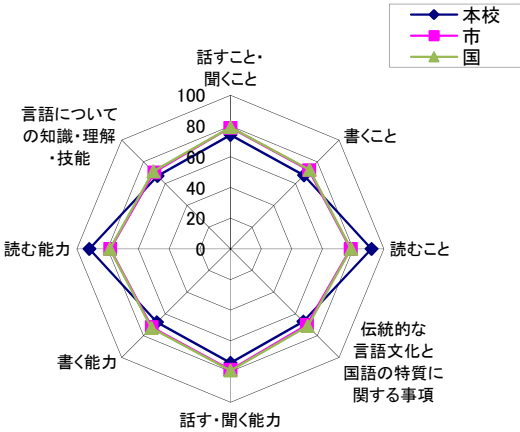
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

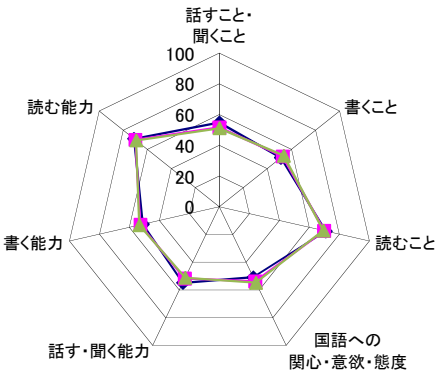
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.2	78.8	79.2
	書くこと	67.7	72.4	72.8
	読むこと	91.9	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.1	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	74.2	78.8	79.2
	書く能力	67.7	72.4	72.8
	読む能力	91.9	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	67.1	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	54.8	51.7	51.1
	書くこと	51.2	52.7	53.4
	読むこと	71.0	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	50.8	53.8	54.7
	話す・聞く能力	54.8	51.7	51.1
	書く能力	51.1	52.7	53.4
	読む能力	71.0	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

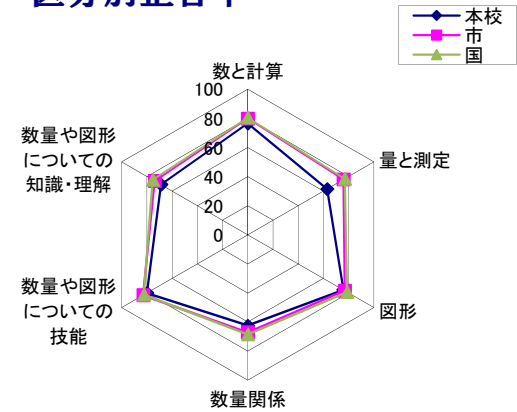
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「国語B」では、質問の意図を捉える問題での正答率が市の平均より6.4ポイント高かった。インタビューしたことをもとに、知りたいことを追究するための追加質問を考えることができた。 ●「国語A」では、話し合いの様子から、どのような話し合いが行われているのかを選択する問題での正答率が、市の平均よりも低かった。	相手の意見を聞いたり自分の考えと比べたりしながら話し合い活動ができるようにし、目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うことができるよう、話し合いの場を充実させる。
書くこと	○「国語A」の取材メモに書いてある内容から、どんな取材を追加すればよいかを選択する問題での正答率が、市の平均より4ポイント高かった。 ●「国語A」の書き手の表現の仕方をよりよくするための方法を選択する問題での正答率が、市の平均より10ポイント以上低かった。	項立ての仕方や見やすさを意識した書き方の工夫、パンフレットや掲示物を参考にさせるなどし、読み手を意識した分かりやすい説明の仕方や書き方を考えさせるとともに指導の充実を図っていく。
読むこと	○「国語A」では、考えを明確にするための根拠となる叙述を選択する問題での正答率が、市の平均よりも20ポイント以上高かった。また、パンフレットの説明から最適なものを選択する問題での正答率が100%であった。「国語B」では、資料に書かれていることを正確に読み取ることもでき、「国語A」「国語B」とともに、全ての問題で、市の平均を上回っていた。	読むことに関する問題での正答率は良好であった。文章の前後関係や根拠を考えさせたり、登場人物の気持ちを考えさせたりする際には、意見を交流させるなどし、考えの根拠となるものを説明できる力を身に付けさせていきたい。また、読書の時間の充実を図り、読解力につなげていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読むことでは、市の平均正答率よりも比較的高かった。 ●ローマ字を書いたり読んだりする問題での正答率が市の平均と比べても低かった。特に拗音「ひゃ(hya)」を読む問題での正答率が低かった。	漢字の書き取りでは、市のステップアップシートを活用するなどし、復習させる機会を増やしていきたい。また、ローマ字の問題での無答率が高かったため、忘れてしまっている児童も多いと考えられる。中学年で学習した内容も復習できる時間を確保して指導していきたい。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

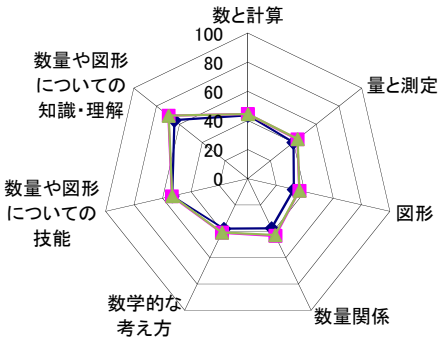
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	76.5	79.9	80.5
	量と測定	62.9	75.9	77.0
	図形	75.8	76.9	78.8
	数量関係	62.4	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	80.0	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	68.9	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	43.5	44.5	44.4
	量と測定	40.0	43.5	43.7
	図形	32.3	36.2	36.3
	数量関係	37.6	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	38.0	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	53.2	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	64.5	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「算数A」の適切な不等号を当てはめる問題での正答率は100%であった。 ●「算数A」では、除数が1より小さいときの商の大きさが被除数と比べてどうなるか答える問題での正答率が市の平均を10ポイント以上下回った。また、小数のたし算では、正答率が市の平均よりも10ポイント以上低かった。位をそろえずに計算しているため、誤答が多かった。	・小数の問題ではたし算・ひき算とかけ算では筆算の立式の仕方が違うので、計算の仕方を確認し、問題を解かせていきたい。市整数での基本的な計算だけでなく、小数や分数での計算問題の習熟を図り、基本的な計算力を身に付けさせていきたい。
量と測定	●「算数A」では、市の平均と比べて10ポイント以上低かった。また、「算数B」でも市の平均を下回っている。単位量当たりの大きさを求める問題では、除数と被除数が反対になっている誤答が見られ、立式がうまくできていなかった。	・単位量当たりの大きさを求める際には、何をもとにして比べるのかを整理して立式ができるよう指導する。速度や割合など、単位を扱う学習とも関連を図り習熟を図る。
図形	○「算数A」では、図形の構成要素に着目して、4枚の三角定規でできる形を考える問題での正答率が高かった。 ●「算数B」では、三角定規の特徴や三角形のきまりをもとに、形の構成について説明する問題での正答率が低かった。	・三角形の特徴やきまりはよく理解できているので、そのきまりを他の図形の構成に応用させることができるよう発展的な学習にも力を入れていきたい。
数量関係	○「算数B」では、最初のハードルまでの距離と規則性のあるハードルの置き方から、スタートから何メートルの位置にハードルがあるのかを考える問題での正答率が、市の平均よりも高かった。 ●「算数A」では、市の平均正答率より4ポイント低かった。	・割合を求める問題では、比べられる量、もとにする量の関係を数直線や図で整理させ、立式ができるよう指導する。これから単位の学習も予定されているので、数量関係を整理できるようにしていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問での肯定的回答率は市の平均を大きく上回り、どちらも90%を超えている。生活習慣のリズムを意識して生活ができている。

○家庭学習に関わる質問では、肯定的な回答率が市の平均と比べても高い。家庭での宿題(復習、予習)について、保護者の協力や理解が得られ、児童が粘り強く家庭学習に取り組むことができていることが考えられる。

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」の質問での肯定的回答率が高かった。学級が協力して得られる成功体験を味わうことで達成感を得ることができている。

○「自分にはよいところがありますか」の質問では、市の肯定的回答率を10ポイント以上上回っている。まごころカードの取り組みや学級でのエンカウンターなど、自己有用感を高める活動が効果的に働いている。

●新聞を読んだりインターネットを見たりしているかという質問に対する肯定的回答率は、市の平均と比べても低い。学校教育の場面でも、効果的なメディアの活用方法を紹介するなどし、情報活用能力を身に付けさせていきたい。